## 4 医師が働きやすい職場を目指して

中枝 武司
新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎・膠原病内科学分野

## Heading for an Ideal Medical Office for All Physicians

Takeshi NAKATSUE

*Division of Clinical Nephrology and Rheumatology,*
*Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

病院勤務医の40.5％が月80時間以上，いわゆる過労死ラインの時間外労働を行っている[1]と言われる中で，大学勤務医の労働時間はその勤務の特殊性から十分に把握されておらず，2019年10月，新潟大学医歯学総合病院で漸く勤務状況の調査がなされたところである．

新潟大学腎・膠原病内科の入院診療については1チーム5～7人，3チームのグループ診療を行い，小さな子供のいる医師も平日9時～16時勤務のパートタイム勤務で無理のないようワークシェアを行っている．当科の子育て中の医師2名について紹介する．K医師は子育てをしながら，疫学研究[2)3)]を行い，ジョンズホプキンス大学オンラインMPH（公衆衛生学修士）コース（https://www.jhsph.jp/）に参加し，MPHを取得予定である．S医師は新潟大学の支援制度であるベビーシッター派遣支援事業割引券，ライフイベント復帰支援制度，研究補助者の雇用制度などを利用し，子育てをしながら，臨床研究[4)-6)]を行っている．

女性医師の就業率は卒後11年（概ね36歳）で76.0％と最低になると報告されており[7)]，仕事を中断（休職），離職した理由の第1位は出産（70.0％），第2位は子育て（38.3％）である[8)]．医師不足が叫ばれる中，子育て中の医師の力をいかに活用するかということは喫緊の課題である．臨床研修医へのアンケートでは，子育てをしながら勤務を続ける上での必要な条件の第1位が「職場の理解・雰囲気」であり[9)]，当科も子育て中の医師が働きやすい環境を提供するように心掛けている．

大学勤務医の業務として臨床，教育，研究の3つがあり，従来それが当然として行われてきたが，働き方が多様化する中で，それらのうちの得意ないくつかを重点的に行うということも考えられ始めてきている．女子医師が働きやすい職場というのは，単に当直や夜間拘束を免除すればよいという単純なものでなく，ライフステージに合わせた働き方が必要になってくる．医師のワークシェアにより休養できる時間をきちんと確保することが大切であり，これにより女性医師も男性医師も働きやすい職場になると考えられる．

### 参考文献

1）厚生労働省第9回医師の働き方改革に関する検討会 資料4，2018年9月3日．
2）Kabasawa K, Hosojima M, Takachi R et al.: Association of estimated dietary acid load with

**Reprint requests to:** Takeshi NAKATSUE
Division of Clinical Nephrology and Rheumatology,
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences,
1-757 Asahimachi-dori, Chuo-ku,
Niigata 951-8510, Japan.

**別刷請求先：**〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎・膠原病内科学分野
中枝武司

albuminuria in Japanese adults: a cross-sectional study. *BMC Nephrol*. 20: 194, 2019.

3) Kitsu T, Kabasawa K, Ito Y et al.: Low serum 25-hydroxyvitamin D is associated with low grip strength in an older Japanese population. *J Bone Miner Metab*. Aug 16, 2019. [Epub ahead of print]

4) Sato H, Kondo N, Wada Y et al.: The cumulative incidence of and risk factors for latent beaking in patients with autoimmune diseases taking long-term glucocorticoids and bisphosphonates. *Osteoporos Int*. 27: 1217-1225, 2016.

5) Sato H, Kondo N, Nakatsue T et al.: High and pointed type of femoral localized reaction frequently extends to complete and incomplete atypical femoral fracture in patients with autoimmune diseases on long-term glucocorticoids and bisphosphonates. *Osteoporos Int*. 28: 2367-2376, 2017.

6) Sato H, Kondo N, Wakamatsu A et al.: High bisphosphonate treatment rates and the prevalence of atypical femoral fractures in patients with systematic lupus erythematosus: a single-center retrospective study performed in Japan. *Rheumatol Int*. 39: 1803-1810, 2019.

7) 平成18年度厚生労働科学研究「日本に医師需給の実証的調査研究」(主任研究者 長谷川敏彦, 2006.

8) 日本医師会「女性医師の勤務環境の現状に関する調査報告書」, 2009年3月.

9) 厚生労働省「平成25年臨床研修修了者アンケート調査」, 2013.